

授業科目名	教育学研究法B
科目番号	CB11147
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 月3,4
担当教員	京免 徹雄, 山本 容子, 早瀬 博典
授業概要	原理、思想、歴史、学校研究、政策研究、国際比較、教科教育など、教育学のいずれかの分野または複数について扱う。担当教員が、自分の研究や最近の研究成果を題材に、どのように研究方法を活用しているかを解説し、その後、実際に受講者が調査や文献検討を行い、研究方法の活用力を習得する。
備考	教育学類生に限る。 実務経験教員 対面 必修科目
授業方法	講義、演習及び実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力
授業の到達目標（学修成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動学、理科教育学、社会科教育学、カリキュラム学などにおける研究・調査方法を理解している。 ・実験・観察法や調査方法の実際、意義と問題点、成果と展望を、具体的な研究事例に即して提示できる。 ・基礎的な調査や分析を実施することができる。
授業計画	<p>文献レビュー、簡単な調査、聞き取り調査の練習、文献やインターネット等を通して得た情報の整理と検討などについて、実際に受講生が体験する。その上で、授業で報告を行い、最終的に成果をレポートにまとめる。</p> <p>第1回 オリエンテーション：教育学の研究領域</p> <p>第2回 特別活動の基礎理論</p> <p>第3回 事例から学ぶ小学校における学級活動の授業分析</p> <p>第4回 授業分析における逐語記録の活用</p> <p>第5回 中学校における学級活動の授業分析の実践</p> <p>第6回 理科教育の基礎理論</p> <p>第7回 理科教育における研究方法論</p> <p>第8回 理科教育における教材研究</p> <p>第9回 理科教育における指導方法</p> <p>第10回 理科教育における授業分析</p> <p>第11回 社会科教育の基礎理論</p> <p>第12回 社会科教育における研究方法論</p> <p>第13回 社会科教育における教材研究</p> <p>第14回 社会科教育における指導方法</p> <p>第15回 社会科教育における授業分析</p> <p>第16回 カリキュラムに関する基礎理論</p> <p>第17回 カリキュラムに関する研究方法論</p> <p>第18回 カリキュラムに関する分析手法</p> <p>第19回 カリキュラムに関する調査方法</p> <p>第20回 カリキュラムに関する調査演習</p>
履修条件	

成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のコメントシート50%、各教員より出されるレポート50%で判断する。 ・4名の教員によるオムニバス授業であるため、各教員の算出した得点の平均値が総合的な授業評価となる。 ・3分の2（14回）以上の出席を単位認定の条件とする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>講義(50%)と演習(50%)を併用する。</p> <p>自分の興味ある研究テーマについて事前に整理した上で授業に臨み、履修と並行して研究課題や研究方法を明確化していくことが望ましい。</p> <p>各担当教員より調査・分析に関する課題が出されるので、個人あるいはグループで取り組むこと。</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>各担当教員より、授業時に指示および資料配布する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本教育方法学会(編), 『日本の授業研究(上・下)』学文社、2009年。 2. 河野義章編著, 『授業研究法入門』図書文化、2015年。 3. 日本特別活動学会編, 『三訂 キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社、2019年。
オフィスアワー等(連絡先含む)	オムニバス授業のため、各担当教員にメールで御連絡ください。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	講義順序を変更することがある。課外学習として、学校現場における授業観察や学習補助に参加することがのぞましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	授業研究, 授業分析, 逐語記録